

桜川文芸

俳句

【大和俳句愛好会】

炊き立ての湯気ほうほうと今年米

鈴木ふみい

石榴の実裂けて過ぎたる忌の一つ

古橋 益子

碎石の山肌あらわ秋の雲

成田 あさ

晩学や身を労はりて秋灯下

鈴木登美子

碑の薄れし文字や秋の旅

岩渕のぶ子

深呼吸すれば冬の日匂ふごと

田代てい子

【桜川岩瀬俳句会】

杖の身に足裏にそつと草紅葉

菊池 すい

冬の蝶必至に友を探すごと

大関しづ子

枕辺に本を並べて夜長かな

上野 好江

山寺の鐘のひびきに紅葉散る

永瀬 ちい

連れ添うて舞う友もなし冬の蝶

細谷 充子

新そばの香りただよう旅の空

長井 冬扇

短歌

【やまと短歌会】

さわさわとちがやの原を吹きすぐる永遠

といふ風のささやき

塚田 沙玲

磨かれて透る白さに仕上りぬ明日の蔵で

神酒となる米

西岡 和子

プランターに花溢れ出づ無人駅やまと駅

舎の駅前広場

深谷 快子

さりげなくこうせん飴を運び来し菓子マ

イスターわたしの友は

中原すみ子

冬告げる庭の日陰の山茶花はめだたず急

がずひっそりと咲く

皆川 米子

亡き夫と守りきたる田荒れはつる今日は

野焼きの火をはなちたり

塩谷 明子

【岩瀬短歌会】

株分けをしたる苗木を送りしと電話の声

は横浜の友

大関にち子

親子とふ左官工の睡まじく大夕焼けを塗

り込めて終ふ

萩原きしの

子らの声庭に響きしは遥かなり老朽の団

地の夕影深し

岡野 禮子

暁の光と露をまとひつつ吹きそむるハス

の淡き紅

古賀 澄

草も木も去年のままなるわが庭も異なり

て見ゆ歌詠み初めて

石田 守子

母の初盆送りておそき夏休み夫と見つめ

る大洗の海

浜野和 操

秋萩の花ぶさ白くゆらゆらと山の斜面に

風のいざない

大関 節子

剪定のモチの一樹に夢這はせ凌霄花の円

き花叢

中原 宇内

有料広告掲載募集中!

お問い合わせは、秘書広報課へ ☎58-5111-75-3111、内線1268

広報 さくらがわ

有料広告掲載募集中!

お問い合わせは、秘書広報課へ ☎58-5111-75-3111、内線1268

広報 さくらがわ